

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 8 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 5 期）
開催日時	令和 4 年 5 月 3 0 日(月) 午後 6 時 3 0 分～午後 8 時 3 5 分
開催場所	高松市役所 1 1 4 会議室
議 題	「U 4 0 世代へのアンケートの作成」
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	穴吹委員、松井委員、西森委員、三木委員、林委員、湯川委員、熊野委員、若林委員、中村香菜子委員、二川委員、大崎委員
ゲスト	村上 モリロー氏
市職員 U 4 0	佐々木、四宮、三好、平岡、香西、藪下
事務局	中川局長、一原参事、塩田部長、平井補佐、岡本係長、伊藤
傍聴者	1 人 （定員：5 人）
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

### 審議経過及び審議結果

#### 1 開会

**（創造都市推進局長より挨拶）**

**（グループワークで近況報告）**

**【副会長】**

今後の方向性と今日の流れを会長から話してもらう。

**【会長】**

今日は第 8 回ということで、全 1 0 回の 8 回目となり、終盤に来ている。前回まで振返りをして、今日、そして今後の進め方について説明する。

## 審議経過及び審議結果

### (前回までの振り返り)

#### 【会長】

前回に引き続き、アンケートを作ろうということで、グループワークをしていく。

設問は今日ある程度完成させて、方向性を皆さんに認識してもらいたい。

6月中旬から下旬まで、最終のアンケートを共有し、7月で、市民から回収をしていく。8月下旬で第9回会議を開催し、アンケート結果の分析を行い、11月の最終回で大西市長へ発表したい。

そもそも、なぜアンケートするのかという目的を振り返りたい。

このアンケートはU40世代、若者から高松市への通信簿に当たるもの。この結果に応じて、事業提案ができたということも考えていたが、スケジュール的に難しいこともあり、一方で、回答者が楽しくサクサクと回答できるアンケート、楽しいアンケートは何かと考えた結果、しっかりU40世代の声を高松市に伝えるアンケートにしたい。

それに対して、高松市からどういうレスポンスがあるかというところは、その先の話で、まずは、我々は高松市とU40世代の市民の方の間に入って、その意見や想いを可視化するというところに注力するというのでいいのではと思う。

U40の我々が、それをやる意味としては、今までの第1回からずっとやってきた、各委員が持つ課題感に基づいた質問事項を並べることによって、我々らしいアンケートを実施することができると思う。

今日はこれから、グループワークの30分で、自分の意図と設問が合致しているのかと、皆さんの想いが反映されているものなのか、話し合う中で、もう1個加えたいという話になるのか、そういったところも含めて、グループワークをできたらと思っている。

### (質疑応答)

### (各チームでグループワーク)

#### 【副会長】

修正点を確認していきたい。

どこをどう変更したかを発表してほしい。

【黄色チーム】

「高松は他の街と比べて特徴のある街とを感じるか」という質問だが、高松は「これと言えるものがあるか」という設問に変更したい。

「休日は高松市内で遊ぼうと思えるか」という質問だが、遊ぼうと思えるかという聞き方をしてしまうと、各々のモチベーションにも左右されるという話があり、特に休日の過ごし方の満足度について聞きたいので、「高松の休日の過ごし方に満足しているか」にしたい。

「高松の公園は出かけたくなる場所か」という設問についても、高松は「ふらっと出かけたくなる場所があるか」というふうにしたい。

男木島女木島については、休日にだけを消去したい。

【会長】

高松の男木島女木島に遊びに行きたいとはどういうことか。

【委員】

ワーケーションっていう話があり、休日だけではなく、多様なケースも考えられる。あえて休日という言葉を使わなくてよいのではという話をした。

【ゲスト】

遊びに行きたいととると、遊びに行くのに絞られる。

ワーケーションや、男木島女木島に行きたい度なのか、遊びに行きたい度なのか。

【会長】

行きたい度らしい。遊びに行きたいを改めて、行きたいに変更する。

【委員】

塩江温泉というところの、観光地というか、温泉郷としての、利用のされ方みたいなのを聞きたいところもあって、この設問はこのままにしたい。

【青チーム】

「高松は芸術活動が盛んだと感じるか」はそのままで、「高松は、アーティスト活動を仕事として生活したいと思える街か」を「高松はアーティスト活動をする機会が豊富な街か」に変える。仕事にフォーカスしているが、そういう機会が

多ければ多いほど、そういう仕事が成り立つ機会も多いのではという前提に立って、質問を構成し直した。

優しいという形容詞を変更で、「子育て世代が暮らしやすい街か」にする。それに準じて、「高松は外国人が暮らしやすい街か」に揃えた。

「働きたいと思う会社がたくさんある街か」の「たくさん」を削除し、「働きたいと思う会社がある街か」に改める。追加質問で、「高松は参加したい地域活動がある街か」、暮らすと労働の間ぐらいの地域活動。

これは青のカテゴリではないが、純粹に高松は住みたい街かっていう設問を追加してもよいのではという意見があった。

「高松は芸術活動が盛んだと感じるか」という設問は、アーティストが仕事として食べていけるかを聞きたいというのが意図だったのが、局地的なところがあるので、前の方がいいのではと思う。

#### 【緑チーム】

緑チームは、変更点は2ヶ所。まず、「高松は野菜を食べる街か」という設問を、あえて地産地消と別で残した質問だが、地産地消と統合するのはどうか。検討中だが、暫定で、「高松は1日分の野菜を食べられる街か」にする。現在地を知りたい。この表現、どうしたら伝わるのかを議論をしていた。

最後の変更点が、「高松は自然と交流が生まれる街か」が、ネイチャーの意味の自然になるのではないかとということで、「人と交流が生まれる街か」という変更。自然に人と交流が生まれるか。

追加した、住み続けたい街かっていう設問だが、高松市の方に限定して聞くはずなので、仕事に関係なくというのを削除して、現在住んでる方、若い人もこれから先住み続けたいくなるのか、今住んでる人たちが住み続けたいと思ってくれば、それはいいことかと。

#### 【委員】

地域活動の質問だが、我々らは地域活動って言われて、すぐに思い描くものがあるが、例えば10代、高校生に聞いたときに、地域活動って何か分からない可能性がある。地域活動は結構広い言葉だと思うので、例えば注釈をつけて、ここでいう地域活動とは何かという説明を入れてあげたら答えやすいのではないかと。

#### 【委員】

地域活動、(ボランティア)とかNPO活動が入ってくるイメージではいた。

【委員】

言葉選びをどうしようかなと。

例えば高校生とかが、いわゆる学校の課外授業とかで、地域活動が入ってくる可能性もある。

【委員】

地域活動だと、お祭りも地域活動だと思うので、広いイメージになる。

あまりボランティアというと、意識が高いようになる。自然と参加している、地域活動も含めたい。ボランティアをのけて、社会貢献活動、地域の行事・活動にするか。

【委員】

地域の行事というと祭りが思い浮かぶのではないか。

【ゲスト】

そもそも、質問に対して、採点で答えられるのかどうかと思いながら聞いていた。最終的に内容はあとで決める必要がある。アンケートするのなら、語尾が「ですます」の方がいいのでは。

【会長】

それを相談したいと思っている。

【ゲスト】

「ですます」にした方が答えてくれやすい。

統一感を持たせた方がいいのかと思いながら見ていた。例えば、アンケートを書く人からすると、書きたいとちょっとワクワクしてもらった方が、書いてもらいやすい。このアンケートが世の中に出ていく時に、キャッチーなほうがいいと思う。せつかなので、U40にちなみ、例えば40個にして、10代は40個も書くかって言ったらしないので、10代は10個以上とか、20代は20個以上答えるとか、30代なら30以上答えてのよう何人答えて何個っていうのが全部出ればそれでいいと思う。

高松 vs U40みたいな、テーマもちょっとキャッチーな感じにしないといけないと思う。これを、大西市長に提言して、こういうアンケート集まりましたという時に、もっともっと40ぐらいあった細かいものが出てくるのではない

か。U40の人たちのアンケートを集められるって、なかなか10代20代の人たちの話を聞けないので、企業からしたらとてもありがたいこと。。

その人たちが、世の中の主役になってきて、消費者の主役になってくるから、このアンケートを企業が見たら、事業に生かせるとか、団体が見たら、団体のこれからの未来に生かせるとか、自治体が見たら、こういう考えがあるならこうしようと思ってもらえるようなところまで持っていけるとなると、少しテンション上がると思う。

これを書いてもらうときに、高松 vs U40、あなたの自治体や企業や学校にみんなの声を提言しますみたいなものであれば、書こうかと思うのでは。

自分の学校にもこれ出してくれるとか、皆の声が集まったら出してくれるのなら学生が書いてくれるかもしれない。

労働者なら、自分の企業の社長もこれ見ると思えば、書こうってなるかもしれない。自由記入欄に、たくさん記入するかもしれない。

高松市に最後出して終わりよりは、それから次にどうなるかが不透明なよりは、具体的にこういうところに高松市に提言して、こういうふうに送りますよ、高松の広報誌に載りますよとかいう方がよいのでは。

このアンケートの生かし方みたいなものを、最終的に市長に提案できたら、最高かなと思う。

#### 【副会長】

グループワーク、そして全体でのアンケートの項目のブラッシュアップが終了した。今日やるのは、情報発信の部分について。今後の流れとして、全体の会議は2回ある。第9回を8月のお盆明けぐらいに予定をしている。

その間にアンケートの体裁を整えて、7月1日から31日までの間に回収して、公表し、回答してもらいたいと思う。

その時に皆さんの、お知り合いに、ぜひ声かけをして欲しい。

例えば、SNSで、声掛けをしてもらえると嬉しいし、大学生や高校生との関係があるのであれば、そういったところに直接行ってもらえるとありがたい。

目標というほどではないが、大体300や500の回答が集まると、このアンケートの信憑性みたいなのがすごく高まると思っていて、そこまで皆で目標を設定してやりたいというふうには思っている。

8月下旬で分析、検討する会議を開催したいと思っている。

#### 【委員】

40歳以上の世代の方には、このアンケートは基本的に回答しない設定で作っているが、声掛けをしていく中で、40歳以下の人にしかアンケートできないとは言いつらい。そここのところはどうするべきか。

【委員】

誰でも答えるようにして、あなたは何歳ですかのように聞いたらどうか。  
集計しやすく、アンケートしやすい。

【ゲスト】

多分、U40って書いてあるから書きたくなると思う。

40歳以下の人たちだけのアンケートですって言われた方が、40歳以下の人たちは、私たちの声を聞いてくれるというテンションが上がるのではないか。

40代以上の方は断る方がいいと思う。その方が若い人たちは書きやすい。

【副会長】

なるほど。では、しっかりとその人とコミュニケーションをとって、年齢を引き出し、41歳だったら、しないでくださいというふうにする。

【ゲスト】

この会は基本的にボランティアでしている。

ボランティアは、始めに新しいことをやるときは、推進力にはなるが、次につながるという希望がないと継続できない。

基本は継続の力だと思っていて、次こういうふうになるために作成したという希望がはっきり見えたら、次につながりやすい。

次にやるしかないぐらいのところで、提案時に持っていけたら、みんな集めなくなるし、書く人も書きたくなる。ボランティアでアンケート集めることは大変だと思う。みんながテンション上がるような、仕組みにした方がいいと思う。

【副会長】

原点に近い。若者の声が届いてない、可視化されてないと。

そういった課題をしっかりと出して、その人たちの声を出していきたい。

【委員】

事務局は、周知協力等は可能か。

【事務局】

市の広報自体は、7月は締め切っているのですが、SNSや市のホームページにリンクを貼ることは可能。

【会長】

グーグルフォームを共有するのは、コンプライアンス的に問題ないか。  
グーグルフォームのURLを市の公式SNSでシェアするのは。

【事務局】

特段問題はない。

個人情報を集める話ではないので、回答方法がグーグルフォームという形であれば、問題はない。

【委員】

40歳以下の市役所の職員人数が多く、市役所の職員も上の世代の方とのギャップを感じている部分もあると思うので、可能だったら協力してほしい。

【事務局】

市の職員向けの掲示板がある。そこを活用すれば、職員にも周知可能。

【会長】

あとは、アンケート実施まで会議はないので、オンラインでやりとりさせていただく。

【副会長】

何か追加したい質問があれば、直接でもフェイスブックのコメントのところでも、出していただければ。

【会長】

一旦時間を置いて、質問を回答者目線で見直していただく時間をとって、感じたこととかシェアしてもらえたら、助かる。

アンケートフォームを1回立ち上げてみるのもよい。

2 閉会

**(事務局から事務連絡をして閉会)**